

綾瀬市立天台小学校

研究テーマ：「学びを楽しむ子をめざして」－児童が資質・能力を身につけるための単元づくり・課題づくりを通して－

1 実践の目的

単元とは問題解決のプロセスであり、課題づくりが単元づくりのポイントになると考える。また、目の前にある課題に対して、自分で一生懸命考えたり、友だちに相談したり、自分の考えを伝え合ったりする中で、新しい発見をしたり、課題を解決したりして、「分かった」「できた」という感覚を味わうことができれば、学びを楽しむ子が増えると考えている。

アンケートの「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。」の結果を見ると本校の児童は学習に前向きに取り組もうとする児童が約85%いる。だが、「授業の終わりには、学習したことを振り返り、自分の言葉で書くことができますか。」の結果をみると約62%まで下がってしまう。この結果から本校は「書く力」に課題があると分析した。

そこで、児童が学びを楽しむような単元と課題を設定することが、育てたい児童の資質・能力を身につけていくことにつながると考え研究テーマを設定している。さらに振り返りの時間をしっかりと設定し、自分の学んだことを書いて表現させる機会を確保することで、次の学びへつなげていけたらと考えている。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

本校は全学級で授業公開をしている。今年度は職員全員を低・中・高のブロックに分

け、月1回程度部会の時間を設けた。そこで、児童の実態や課題を共有した上で、どのような取組を行うべきかを話し合ったり、研究授業に向けた話し合いをしたりして児童に身につけさせたい資質・能力について一緒に考えていった。その中で日々の振り返りの仕方についても相談し合った。

(2) 読書活動の推進

本校児童の課題としてあがっていた「書く力をつけていくために」という視点から、少しでも多く字に触れられる時間の設定をしている。朝読書、図書の時間、課題終わりの隙間の時間などを有効的に使用している。また、児童が本に興味をもてるように本の紹介、読み聞かせ等の活動を積極的に行っている。また、学校司書との授業連携も積極的に図った。図書委員会の活動の内容として、本を手にとってもらえるように教員による本紹介しりとりや児童が考えた本を借りることでビンゴゲームや暗号ゲームができるイベントの開催などを行っている。

(3) 研究授業、研究協議の様子

講師の先生をお招きしての研究授業は低中高で1本ずつ行った。事前に、授業検討会を設定しており、そこで単元構成をみんなで考えたり、本時の課題はどのような課題がよいか、支援の手立てはどのような方法がよいかを考えたりするなど、グループで協議し、共有しあう時間を設けた。また、単元計画を作成する中でどのようにしたら児

童が興味関心をもって学習に取り組むことが出来るのかを考え、新たな取り組みをする学年が多くいた。

研究授業は、児童にどのような資質・能力を身につけさせたいかを把握した上で参観し、研究協議の際は、それぞれが考えた成果と課題を伝え合う活発な話し合いを実施することができ、次の学びへとつながった。



自分の考えを
伝え合う

自分で選んだ調
べ方で調べる



学校司書と連
携して学年の
本棚も充実



3 実践の成果

○今年度は「単元・課題作り」、「伝え合い」、「振り返り」というキーワードを意識しながら校内研究に取り組むことができた。指導案にも「振り返り活動を通して」という項目を追加し、単元の中にしっかりと振り返る場所を位置づけることができた。振り返りをどのように書かせ、どのように次の学習へ生かしていくのかを考えることで、教師の振り返りに対する意識をより高めることができた。

○児童が見通しをもって授業に臨めたり、児童自身が何を学んでいるのかが明確になったりするように、単元ごとの学習プラン

の作成に努める学年やクラスが複数あった。児童にとっても見通しをもたせることで、自分たちが何を学ぶのかが分かり、意欲の向上につながったり、何を学んできたかが振り返りやすくなったりするという良い効果があった。

○学習内容に興味関心をもたせるために、単元計画の順序の変更や授業展開について工夫している学年・クラスが多くみられた。その結果、児童が自発的に問題や課題に向き合う姿がみられた。

○調べ学習をする際、児童自身で学びを深められるように、ICT や本、動画など様々な手立てを考え、自分で選択し調べていく学年・クラスなどもあった。その結果、調べたことを自分の意見として相手に伝える自信につながっている場面などもみられた。

○振り返りの書き方や内容については、見本となる児童のノートをコピーして掲示するクラスもあった。他の児童がよい手本を見られる環境を整えることで、児童自身で目標を設定することができ、お互いの意欲向上につながった。

4 今後の展開

考えを伝え合うためには、まずは自分の考えをもつこと、そして自分の考えを書くことができてほしいが、自分の考えを文に書く力はまだまだ乏しい。語彙力を増やしていくためにも日々の読書活動の推進や授業の工夫に継続して取り組んでいきたい。また、伝え合う力について、まずは低学年で伝えることから始め、次第に伝え合うこともできるような力をつけていき、学びを楽しむ子を育てていきたい。